

果樹政策の見直しに係る検討の視点について(議論の素材)

検討の流れ

【1 検討の起点】

果実・果実加工品の消費拡大・
流通の多様化への対応



【2 産地機能の評価】

産地計画を軸とした産地独自の
取り組みの加速

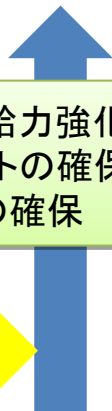


【3 ニーズに応えた供給力強化】

多様な生産・販売ルートの確保
販売価格・販売量の確保



産地育成のため
の下支え



【4 産地育成のための基盤施策】

果樹経営支援・需給安定対策の
見直し、各種産地育成策の強化

検討の視点(例示)

- 食生活の中での果物の位置づけは。ニーズの変化に対応しているか。
(ライフスタイル、おいしさの感覚、健康、生果か加工品か)
- 需要者のニーズに着目した戦略的な情報の提供がなされているか。
- 食品の販売形態の多様化(CVS、ネット販売等)への対応。
- 産地と消費地をつなぐ情報ルートが確保されているか。

- マーケティングに基づいた生産・出荷の推進体制の整備。
- 高齢化が進む中での園地流動化の促進、園地及び栽培技術の承継。
- 新規就農者に対する技術支援、園地の提供システムに係る課題。

- 産地と卸、仲卸、小売業者間のパートナーシップを強化による、安定した取引環境の構築。
- 産地の販売戦略に基づく栽培技術の徹底、ニーズにあった品目・品種の栽培を通じた顧客が満足できる果実の供給。
- 市場出荷のみならず、販売ルートの多角化を推進。観光農園も含めた6次産業としての位置づけも視野。
- 産地や加工業者等のマーケティング力を生かした、加工・業務用果実、輸出向け果実の生産・流通体制の整備。

- 産地の販売戦略に基づいた優良品目・品種への転換支援。
- 計画的な生産・出荷の推進と緊急的な需給調整の実施による価格・供給量の安定化。
- 果樹経営にフィットした農地整備の推進(代替園、育苗ほの設置等)。
- 産地の企画販売力の向上への支援。

(参考) 果樹政策の見直しについて(スケジュール等)

現行対策

果樹産地構造改革計画に
基づく産地支援

新たな果樹対策 (H19～)

果樹経営支援対策
【品目転換・小規模園地整備等】

需給安定対策
【計画生産・緊急需給調整】

21年度に対応すべき課題(足下の課題)

○果樹産地構造改革計画を軸とした産地の取組の深化

- ・先進的な推進事例のフォロー、未策定産地への推進
- ・産地の状況を踏まえた果樹経営支援対策の運用改善 等
- ・品質改善・大幅な労力低減に資する革新的な技術の普及
→かんきつマルドリ(新農政2008記載)、なしジョイント栽培等

○需給安定対策の強化

- ・極早生みかん対策の強化、機動的な需給安定対策の実施等

○加工・業務用需要の創出

- ・新商品の開発促進による需要喚起 等
- ・中間事業者を核としたサプライチェーンの構築

○マーケティングに立脚した果実消費拡大戦略の展開

- ・機能性成分や栄養成分の情報提供、食育との連携 等

○輸出対策

- ・検疫条件に応じた栽培管理体制の構築、安定・継続的な輸出を実現させるための産地育成 等

産地改革に向けたキーワード(中期的課題)

○果実の消費拡大・流通の多様化への対応

- ・需要者、消費者が求めるニーズの把握
- ・産地と消費地をつなぐ情報ルートの確保

○産地計画を軸とした産地独自の取組の加速

- ・マーケティングに即した生産出荷体制の整備
- ・売れる品目・品種への転換
- ・園地の継承、人材の育成・確保

○ニーズに応えた供給力の強化

- ・販売ルートの多角化
- ・加工・業務用対策の加速
- ・産地の企画販売力の強化

○果樹経営支援対策・需給安定対策の評価と見直し

検討の スケジュール

食料・農業・農村
政策審議会

新たな果樹政策

現行対策

2008(H20)年度

企画部会

果樹部会(6月)
生産出荷見通し審議

2009(H21)年度

新基本計画の
策定(3月)

果樹部会(6月)
基本方針策定を諮問

果樹部会(3月)
基本方針答申

新たな果樹農業
基本方針の策定

2010(H22)年度

果樹部会(6月)
生産出荷見通し等審議

新たな果樹農業基本方針の政策への反映

23年度予算要求
(新たな果樹対策含む)

2011年度

新果樹対策
運用開始

果樹経営支援対策運用改善・需給安定対策の的確な実施等(H19～H22)